



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第24巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木栄太郎著作集 7 (国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である (同書内での言及による)。
Issue Date	1962-11-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77528
Type	manuscript
File Information	I027_0142.pdf



NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

國民社會の研究

(42)

日本
史
時代
區分

第二十四卷

昭和十九年七月七日

A

30

353



意匠登録

No.151492



機関

Organ
institution
agency

結集の機関と云ふ語の新正に
人や物や心が各地から集まり又その
行く様子を結果に於て演
生業活動の本據又は社会の機関
是に而して從業員以外の人が大
し大り連動したりす。此の如く思
活動本據と云ふ。これは結集機制
より集散機制と云ふより廣く
結集はスリヤ等の名表現下
云へば此と云ふより名表現
結集の図を英訳すれば gathering
gathering agency と云ふ
ハ

日本の風土に合せて独自の
にその成長をせしめた

第一の工業運は鉄、米、字が同様に輸入され

強国式文化は鉄、米、字を輸入して、二か国利国利
によつて日本は輸、米、字の文化を輸入の内に養育成す
るが、大抵これ等の輸入品は、日本に生ずるに成る
し、漢の鉄、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
中、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
漢の鉄、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
その輸入品は、日本に生ずるに成る
は、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
か、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
大から、日本は、鉄、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
と、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
大し、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
十、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
に、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
文、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
財、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る
あ、口ルは、米、字の輸入品は、日本に生ずるに成る

第二は平安時代でなく、鎌倉時代は、武家の優越が、大に
十世紀同様に有しなかつた。日本文化は、鎌倉時代に成る
第三は平安時代でなく、鎌倉時代は、武家の優越が、大に

日本文化の大きな時代区別と云ふの言葉
(三九七八)

BD BC

中に大強の頭

2019/18/17/16/15/14/13/12/11/10/9/8/7/6/5/4/3/2/1

素の時代

鎌倉時代

鎌倉時代

古墳時代

飛鳥時代

白鳳時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

江戸時代

明治時代

大正時代

丁巳の昔同族の積り重なり

最近米に人より日本人に化して中々

の人は現在の日籍士でいれは之れを

本人であるか。日本日民としての共同性

験の積り本邦に在る甚く多い。たから

口籍だけ日民としての決意が決定す

るとは云へない。かゝるものは法律上の

手續をこなして日本に在る者たるが

あつた。それとあつた。他の日民は彼等に

同様にいふ。我々の威一併威一威一

事はあつた。法律上の日本に在るものか

へ。それとあつた。大なるものか。あつた。

それとあつた。それとあつた。日本人に

上なる人のあゝのは当然である。自來水
あゝといふ口癖にも多様や時が彼を満
足させるものがある。日本人といふ特殊品
として知られるものがある。場合によつて
の口癖を維持して行く。必ずしもたゞ
たかゞ好むといふだけの口癖はたゞ人々を
さへある。たゞ一般に口癖は一般に大
衆と共に身並に流布されるものがある。その
口癖のたゞ好悪の別、利のたゞ利の
は関係なく、おれと共に流布する。決
定されるものがある。そのあ
にあゝのは正常の形。愛ハるのは何か
異常の形。たとひいふ。口癖は

身分が扶養されてはなく、身分の争ひ、
いふものと諦してゐるものがある。
けれども口実が構へてゐる民として
の当然性は決して同一ではない。
戦前には日本国民となつた者が、
三代前は明治した人十代前は明治
した人、大正前には明治した人、
明治してからの年代は、情と縁であらう。
その口実と縁とは、素に縁にあり、
有利であるか、は本人が、縁を構へてはあ
るまいか、明治の多くの場合、矢張りそれ
を、それを構へてゐる情のありやを
を得するものがある。それと、縁を
構へてゐる情のありやを

駿と獲て糸の輕重によつて口尻より
の紙裏の指溝が透りぬかぬと云ふ事
のよしを云ふ

今では糸の口力と糸の細の相違を
おぼしめして人に下すものがある

糸の質、個人、糸の質、糸の質、糸の質、
糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、

糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、
糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、

糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、
糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、

糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、
糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、糸の質、

わ。人は一郡の内に数戸ありきなり
てありし。多くは四五代前の祖先
といふ所懸念した人か知。ゆえに
新羅に丁史家の正書によつて本
の太古時代かの記録を自分の祖先
の通つて来る道として伝へる。新羅は
丁史家の研究を以てに據り得る根拠
となりぬ。丁史家の資料は何かの記録である。
出来ぬとして、作られた。後世に傳つ
て、丁史家の書かれたものがあつては
一般に知られてゐる通り、なりふをば、作られた
誤記の事、史実の正史、史實は暴力や謀
略によつて得てゐる。想ふべき。

私は純粋の日本の民下り主張、偉人
人か日本人の中に一人でもあつてゐる
てあつたか。

私の代、神谷の代、日本口民であつた
か、それはそれゆゑに何と云ふやうな
う。口民としての純粋はそれで決ま
てゐる。明治維新の時は、軍閥、たつたか
賊軍、たつたか、町民、たつたか、百姓
たつたか、それでは知つておくとよい。
一般に口籍、それゆゑのものは自今、強き
其に自からうへへゐる。つゝはゆゑであり、
そのゆゑに、つゝはゆゑと云ふ。知らない
てゐるが、口籍が異常状態にある。

おしる。

我々の交流の内容をたずねると
物々心下ある。

人々の交流は交ると呼い
に物々交流は通交と呼い
る。

★文化の型きり共に交流内容は同
なり。且、部は人次に心。部は物

の交流が成立し、
人の生活の材料となるものか
る。

ある。然るに部は
死なうて東交は、
みんて東交も甲東交に
時代にと、その低く
東交

みんて東交も甲東交に
時代にと、その低く
東交

より中東に交易の機を捕らんと
行く。今はまだ時代であるから、密
打より都市に交易の機会を伺ふに
行く。農林漁業等は村や都市
へ。工場産物は都市より農村へ。
けれども交流されるものは生業に
同ずるもの。②
の支下はなし。生活に同ずるもの。③
に同ずるものもある。

総て人の生活活動は

一、生活に同ずるもの

二、生活に同ずるもの

三、余暇的生活に同ずるもの

たの三種に分けて考へると、大體①②③
必要

すうきふ 新編 とうきふ とうきふ。

社会生活の都的觀察

人間の生活は世代別にならねばならぬ
夫でなく^世世代別にならねばならぬ
成長しつつあるものであるから、人間の生活は
活の發達は、あ一回性の發展を
か過しつつある人と人との間の同
伴の中に見ることが出来る。
それは、ある人同の生活の発展
に存する。これは世代別な發展の
成長の發展の発展の発展の発展
しつつある文化の中下の成長
つ、ある人と人との関係を見
ぬ。それは容易でない。
いんかに困難なものである。
#それは、ある人と人との関係
の発展の発展の発展の発展の発展

ハ、リ、リ、と、い、い、も、
さ、や、と、の、を、ま、の、の、ま、に、か、こ、横、に、い、て
破、断、す、可、は、強、を、不、可、能、と、あ、い、
新、作、は、要、求、者、の、百、倍、的、展、
示、追、及、し、つ、ま、の、展、展、し、つ、あ、い、
各、の、同、の、間、付、ち、は、字、の、流、れ、の、上、に
破、断、す、可、は、強、な、せ、り、と、か、い、
り、外、は、な、い、也、事、天、時、夫、ち、今、は、せ
と、知、案、す、可、は、由、案、を、あ、い、と、い、
り、外、は、な、い、

職任期 正逆おまの制天も同様組織
及的いぬ。村にが制も然り。

同族組織と相互的な組織

岡田破君は回文文化系(Vol.1)で同族組織と相互
的な組織として年令階梯組織をもあげて
いるが、地方地区組織(五戸制、五人組、隣
組、十戸制、近隣制、近も総て同族純
血と相互的な制であると思わ。その考
けすへて行政的制なてこの制は素
北いし中部にもある。同族組織は人情
の自然による傾向である。この傾向がと人を導く
ていそのまて行政組織になりた。ゆりてはた
行政組織は人を血縁や利害により組織下
に見るを抑えて対等と見え見すの上に立
つて整えられ。

社会的進歩の上昇と文明進歩

古代に於て殺人は罪惡内に自足

自然の生活をしてゐた。國家の

遊戯的性質の移動生活の時代から

この小から大に成長する外に

家族を單位として自立自然といふ

ので、其處その處の自立自然で、其處

外との交流を必要としなかつた。其處

は内訌の社会的交流が著しく、その

ほとんど機軸から見て、かゝるに

又は出来ぬが、強者が弱者を屈服せ

しめようとする傾向が、行爲により

収奪又は掠奪取せんといふ強者が

弱者には積極的に交流が及んだ後、
今は先方に老えう小も、甲の家族が
この家族に國外にはトめ大様等とい
ておへうたれ、恋愛の國外も甲の
家族内、この家族内に働かかけ
た姉妹の結婚に兄もたてあろう。
かくて弱者の名の國外、恋愛の國
内は人同の生活の始やかう兄も下
あろうし、家族の精神的磨き力も大
著に好し、その力を畏れ慕いて要
求の人は積極的、その見識者には
接應したてあろう。

家族の中か右の如き、
判別の生活の

他に向つて接觸が行はれ然し外部の
東洋には及ばない格な人の生活が
何千年又は何万年より遙く外に
その同じ接觸の任を他の東洋の
今に及ばないたてあらうと容易に考
えようかかれぬ。
甲東洋の國々との接觸の者が自分の
東洋内の人より居船し奪取せし
た後に隣り東洋との接觸の東洋
に同様の行動を行ふに至るのばある
下ある。強者より弱者への接觸である。
然しこれ東洋内同様の接觸である。
東洋の國々や東洋の國々である。

取替証金^甲申す取替証金に及

お国什が生ずる。此等へ事項に因

お替^甲証金^甲はるわが度年^甲に一回

人が^甲替^甲証金^甲行くだけ^甲はなく物が

動いて行く^甲あり通告のため

音信^甲文^甲が行く^甲ある。

任へはすく^甲下^甲果^甲者が^甲隣^甲の^甲有^甲極

の人^甲に^甲屈^甲服^甲し^甲收^甲復^甲の^甲教^甲知^甲を^甲奪

取^甲す^甲より^甲毎^甲年^甲くり^甲返^甲した^甲後^甲に^甲は

総^甲代^甲用^甲者^甲が^甲年^甲に^甲一^甲定^甲量^甲の^甲穀^甲類^甲

を^甲機^甲械^甲的^甲に^甲賣^甲却^甲す^甲より^甲一^甲年^甲の^甲

際^甲に^甲を^甲さ^甲け^甲る^甲に^甲至^甲り^甲総^甲代^甲用^甲者^甲は

の^甲方^甲から^甲総^甲代^甲用^甲者^甲A^甲の^甲方^甲に^甲所^甲丈^甲を^甲送^甲る

と云ふ形になつて、度々平家した形と左
大抵今も多くなつてゐる。古代の帝王
の征服と貢物はかくの如くいへば、
てあつた。AよりBへ
貢物の上級の国はそれか平家した
知るゝおゝゝには双方の側よりの通
信報告の送受即ち心丈のやりと
りも大いに由縁であつたであらう。
東部の国は、互譲の為に人の
往來の外に心の往來が必要であつた。
征伐に因縁する協力の為に人々も
心も往來したるはなりぬてゐる。
然し人の生活が今一般進んで來れば、

物の送受は暴力による奪取のものから
交易の形に近んたてあう。

陸にほみ畑作する者は漁民の魚を
求めんとし漁民は穀物を欲しあ互いに
有無を通じて生活するの双方のため
お物あることを知れたのは当然である。

有る余り積もつていふものを互いに交易
する又は人の生活も二倍にする故
なのでそれが生活の進歩であることは勿
論である。人は交易の道を知り至つた
は生活の躍進的前進を見た。然し交易
のためには物の移動が必要であり、その為
に人や物の移動も常に何程が必要で

およりを認めなければならぬ。

穀物と漁類の交易の外に交易の対象
は魚。ものは限りなく多い。それが漸次分
つて来たら、織物を穀物と交換して行く。
耳環などもあり、金銀を交易して行く。
ところが紙幣も買っていく。ところが
案の地帯には茶を売って穀物と
買ふ人もある。穀物と交換して行く。
は穀物と茶で、茶の品物と買ふ人もある。
そして生活は愈々豊かさを増したと
思ふ。南の口の暖かな地帯で、茶の品物
北の口には珍らしいものばかりある。交易
す。地域が広たると、穀物が増える。

物の移知

人の移知

の移知

一 国民生活の物の邊に於ては
 均分が、合理的に成るべき
 一 物に力を入れたるものは、
 口を以て、人の口を以て、
 教育界に於ては、人を以て、
 化の一族に於ては、人を以て、
 物の移知、人の移知、
 一 物に力を入れたるものは、
 口を以て、人の口を以て、
 教育界に於ては、人を以て、
 化の一族に於ては、人を以て、
 物の移知、人の移知、

一 国民生活の物の邊に於ては
 均分が、合理的に成るべき
 一 物に力を入れたるものは、
 口を以て、人の口を以て、
 教育界に於ては、人を以て、
 化の一族に於ては、人を以て、
 物の移知、人の移知、
 一 物に力を入れたるものは、
 口を以て、人の口を以て、
 教育界に於ては、人を以て、
 化の一族に於ては、人を以て、
 物の移知、人の移知、

補上の人の生活に必要かを問ふ。

ナ、ナ、ナ

村落(世界)
口民記
全世界

多識の事

元々村を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

村の家を築くか一義門を築くか

物動と現物有餘者の後即ち金の
人の移動や心の移動が思ふより多
なる。

右の二つを流の源流に曰ふは必
ず、^{國の}國の富強と乏の富強とを以て
と、^{國の}國の富強と乏の富強とを以て
と、^{國の}國の富強と乏の富強とを以て

中央と東洋と南洋とを以て、
世界の動向は他國の動向と一
重なる。然るに、^{世界}世界の動向は、
地元の動向と交易が自由な世界
より、^{世界}世界の動向は、
い成るの動向は、
地元の動向は、

交通の不便にて難航の地なり
も亦此の道其の要害の地なり
は物や人や此の交通の路線を支分
に難航なりと云ふ何れも是なり
日本を全うするに於て此の地は
日本の要なりといふべし。此の地は
防衛の第一要地なりといふべし
然し日本を全うするに於て此の地は
日本の要なりといふべし。此の地は
防衛の第一要地なりといふべし
は地球の全部工は吾等の国家同
にかりしを度知る者の国にあり
原料易しき度なり工は吾等の

の間の交渉は勿論、甲の機嫌を考慮し
て、幾分乙の控訴の不作を生ずる
との間の各々の素の意思の取捨は、
日本は最近数年来に於いて、この取捨
に於て粗大を擧げたるもの、口際を思
ひ、端が全く自由な可成り多し、
のち、
この取捨の世の中、各々の完全にはい
つた時に、この有る能くが、
以上、
の粗大と交渉の機嫌の増加、
意味、
の粗大と交渉する、
の粗大と交渉する、

拡大して、人の一人の力が強大になる。

人の力は易く

二人の協力に
利用された。

2
 4
 7
 11
 15
 19
 23
 27
 31
 35
 39
 43
 47
 51
 55
 59
 63
 67
 71
 75
 79
 83
 87
 91
 95
 99
 103
 107
 111
 115
 119
 123
 127
 131
 135
 139
 143
 147
 151
 155
 159
 163
 167
 171
 175
 179
 183
 187
 191
 195
 199
 203
 207
 211
 215
 219
 223
 227
 231
 235
 239
 243
 247
 251
 255
 259
 263
 267
 271
 275
 279
 283
 287
 291
 295
 299
 303
 307
 311
 315
 319
 323
 327
 331
 335
 339
 343
 347
 351
 355
 359
 363
 367
 371
 375
 379
 383
 387
 391
 395
 399
 403
 407
 411
 415
 419
 423
 427
 431
 435
 439
 443
 447
 451
 455
 459
 463
 467
 471
 475
 479
 483
 487
 491
 495
 499
 503
 507
 511
 515
 519
 523
 527
 531
 535
 539
 543
 547
 551
 555
 559
 563
 567
 571
 575
 579
 583
 587
 591
 595
 599
 603
 607
 611
 615
 619
 623
 627
 631
 635
 639
 643
 647
 651
 655
 659
 663
 667
 671
 675
 679
 683
 687
 691
 695
 699
 703
 707
 711
 715
 719
 723
 727
 731
 735
 739
 743
 747
 751
 755
 759
 763
 767
 771
 775
 779
 783
 787
 791
 795
 799
 803
 807
 811
 815
 819
 823
 827
 831
 835
 839
 843
 847
 851
 855
 859
 863
 867
 871
 875
 879
 883
 887
 891
 895
 899
 903
 907
 911
 915
 919
 923
 927
 931
 935
 939
 943
 947
 951
 955
 959
 963
 967
 971
 975
 979
 983
 987
 991
 995
 999
 1003
 1007
 1011
 1015
 1019
 1023
 1027
 1031
 1035
 1039
 1043
 1047
 1051
 1055
 1059
 1063
 1067
 1071
 1075
 1079
 1083
 1087
 1091
 1095
 1099
 1103
 1107
 1111
 1115
 1119
 1123
 1127
 1131
 1135
 1139
 1143
 1147
 1151
 1155
 1159
 1163
 1167
 1171
 1175
 1179
 1183
 1187
 1191
 1195
 1199
 1203
 1207
 1211
 1215
 1219
 1223
 1227
 1231
 1235
 1239
 1243
 1247
 1251
 1255
 1259
 1263
 1267
 1271
 1275
 1279
 1283
 1287
 1291
 1295
 1299
 1303
 1307
 1311
 1315
 1319
 1323
 1327
 1331
 1335
 1339
 1343
 1347
 1351
 1355
 1359
 1363
 1367
 1371
 1375
 1379
 1383
 1387
 1391
 1395
 1399
 1403
 1407
 1411
 1415
 1419
 1423
 1427
 1431
 1435
 1439
 1443
 1447
 1451
 1455
 1459
 1463
 1467
 1471
 1475
 1479
 1483
 1487
 1491
 1495
 1499
 1503
 1507
 1511
 1515
 1519
 1523
 1527
 1531
 1535
 1539
 1543
 1547
 1551
 1555
 1559
 1563
 1567
 1571
 1575
 1579
 1583
 1587
 1591
 1595
 1599
 1603
 1607
 1611
 1615
 1619
 1623
 1627
 1631
 1635
 1639
 1643
 1647
 1651
 1655
 1659
 1663
 1667
 1671
 1675
 1679
 1683
 1687
 1691
 1695
 1699
 1703
 1707
 1711
 1715
 1719
 1723
 1727
 1731
 1735
 1739
 1743
 1747
 1751
 1755
 1759
 1763
 1767
 1771
 1775
 1779
 1783
 1787
 1791
 1795
 1799
 1803
 1807
 1811
 1815
 1819
 1823
 1827
 1831
 1835
 1839
 1843
 1847
 1851
 1855
 1859
 1863
 1867
 1871
 1875
 1879
 1883
 1887
 1891
 1895
 1899
 1903
 1907
 1911
 1915
 1919
 1923
 1927
 1931
 1935
 1939

12
a
b
a+b
c
d
e
f
g
h
i
j
k

$2a + 2b$
 $7 - a + b$
 $2a + 2b$
 $7 - a + b$

い
〜
ふ
か
42
に
な
も
す
て
あ
ふ
物
知
と

整
必
求
如
程
人
力
強
力
下
あ
る
可
以
い

人は一人の
物である
その
存在を
感じ

終
 工
 左
 水
 子
 新
 田
 ()
 何
 億
 億
 の

利用している。今日の夜は加夜

的
成
是
之
行
人
謂
之
也
。